



文化と産業の祭典

最高の人出でにぎわう

文化祭と産業祭は11月1日から3日間開催。期間中は1万5千人の記録的な人出でにぎわいをみせていました。

芸文と商工農林業の粋を結集した展示や演示は、躍進する町づくりが象徴され、訪ずれた多くの町民に感銘を与えていました。

冷害で心のこりする農家の人たちも、数多い陳列品に興味深く見っていました。

人口と世帯数

(住民基本台帳による)

10月31日現在	(前月比)
総人口 25,527人	(12人減)
男 12,464人	(5人増)
女 13,063人	(17人減)
世帯数 7,218世帯	(7世帯増)

商工農林業の発展をめざし

地域産業青年部会が誕生

シンポジウムも開催



会長に平塚氏

町内の産業に従事する青年が集い、商工農林業の総合的な改善発達をはかり、地域の産業振興と経済の発展に寄与する目的で、このほど鷹巣地域産業青年部会（平塚光雄会長）が結成されました。

十一月二日午前十一時から、鷹巣農協二階ホールで会員五十人が参加して鷹巣地域産業青年部会の設立総会が開かれました。

総会では、地域の産業に従事する青年の情熱と行動力を結集して、商工業、農林業の総合的な意見交換するなかで、地域の産業振興と経済の発展をはかる」と主旨説明

がされました。

次いで事業として(1)地域産業青年シンポジウムの開催 (2)地域振興に関する調査研究と情報及び資料の収集提供 (3)会員相互の親睦を図る (4)本会の意見を関係方面に建議、陳情具申する...などを行うことを決めました。

役員選任では、会長に平塚光雄、副会長に森山光雄、出川貞宏、佐藤茂延の各氏が二年の任期で選ばれました。

午後一時からは、出川禮一町長、菅原貞一北秋田地方部長、青木清商工会長らを助言者に迎えて、「地域の創造は産業の見直しから」というテーマでシンポジウムが行われました。

シンポジウムでは「農産物の流通体系を探る」と題して、七日市農協青年部・長崎正人さんは「稲作以外から現金収入を得る方法はないだろうか」ということで、年計画の目標をたててみました。水稲二・五ヘクタール、長いも十アール、アスパラ四十アール、繁殖育牛十頭で、堆肥を有効利用した有機農業で合理的な複合経営をしたい。

沢口農協青年部・中島政之さんは「仲間と夏秋キュウリの栽培を行い反収八トンで、今年は札幌、横浜方面に出荷した。今後は東北縦貫道を利用して販路を開拓した

い。他町村と協同で北秋キュウリの産地化したい」と問題提起されました。

これに対し会員からは、▽生産を増やしても消費されるか▽長いものは過ぎみ、キュウリ、スイートコーンは過剰▽価格は長いものはキロ四百五十円から五百五十円、キュウリは反収六十万から七十万▽屋根つきの野菜集荷所がほしい▽牛の導入資金のわくを拡大してほしい...などの質疑や意見が出されました。

次に「地域の誘致企業体質は」と題して太陽鉄工・小島博行さんから「町の出荷率は第一次産業三・四・三％、第二次産業二・一・四％、第三次産業四三・三％で、第二次の製造部門が低いことから、企業誘致してほしい。また企業が誘致された場合、農業経営の集団化で農家の余剰労働力が供給できるような対応できるだろうか...と問題提起されました。

これに対して、農業青年から兼業農家が多くの請け負い耕作が進んでいないと話されました。また助言者からは▽地元資本、経営参加、製品販売などで地元に着した企業▽地元資源を生かす企業▽男子型優良企業...などが望まれる企業ではないだろうかという意見と▽高卒者は肉体的労働をきらいので誘致しても従業員が集まらない例がある▽若年者が地元産業に就職しなくなるのでは▽交通体系が整備されていないのでは誘致企業はコスト高になるのではなか...など、問題点も多く出されました。

町長日誌

10月16日～10月31日

19日 森吉町外四カ町村病院組合議会臨時会

21日 稲作等冷害対策会議

21日 町事業主交通安全連絡会

23日 秋田県国民健康保険団体連合会四十周年記念式典

26日 秋田市

27日 北秋田地区商工ゼミナール地域シンポジウム

28日 松原一岩谷線改良工事現場視察

町が統計で大臣表彰

統計に関し功績のあった個人、および団体を表彰する秋田県統計功労者表彰式が、十一月十二日県児童会館で行われました。

当町からは、永井清（坊沢）、堀部実（葛黒）、岩川スガ（大町）岩川元治（元町）の四氏が、秋田県知事表彰を受賞しました。また、団体では住民基本台帳人口移動報告が認められ、内閣総理大臣表彰が伝達されました。

国民健康保険税第五期

納期限は……

十一月三十日まで

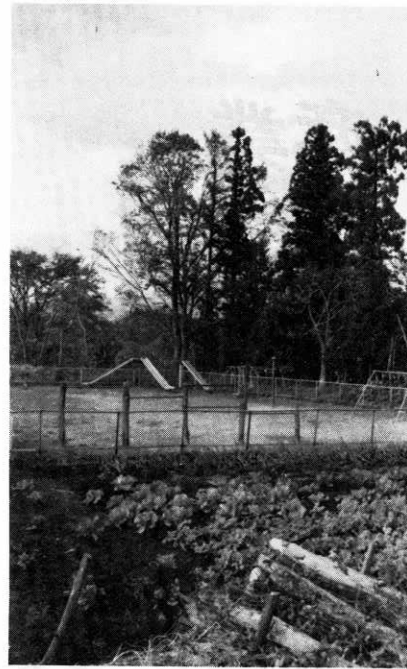
緑ヶ丘地区に待望の

担い手センターを建設

農用地利用増進特別対策事業で

町ではこのほど、坊沢字堀切（緑ヶ丘）地内の一部に農用地利用増進特別対策事業として、緑ヶ丘担い手センターの建設、運動公園、農道の整備を行うことになりました。

農用地利用増進特別対策事業は農地の流動化をはかるなかで、農業の近代化を推進しながら、農村の老齢化に対応した、後継者育成を計画。また地域の冠婚葬祭の簡素化により、生活の安定と農業生



産を高めるもので、あわせて、地域の健康づくりとコミュニティづくりを推進するものです。

計画によると、担い手センターは木造平屋建てで、総面積二百二十一・四十四平方メートルです。主な内訳は大会議室が九十九・一五三平方メートル、和室の小会議と研修室は二間つづきで利用でき、それぞれ十三・二二平方メートル、調理実習室は十九・八三平方メートルとなっています。

運動公園は、担い手センターに隣接した七百七十五平方メートルを整備。バレーボールやゲートボール、軽

スポーツが楽しめるほか、シニアやジャングルジムを設置して、幼児や老人もいこえる場とするものです。

また緑ヶ丘地区が事業主体となつて農道と圃場整備を行い、作業効率を高めるとともに、タバコ、大豆、一般野菜を作付けて、複合経営で自立農家の育成に役立たせるため、町が一部を補助するものです。

総事業費は二千九百十二万六千円です。内訳は担い手センター建設工事費が千九百五十二万七千円、運動公園整備費二百九十九万九千円、農道圃場整備費補助金が七百五十九万円です。

事業の竣工は、昭和五十七年三月二十日の予定です。



▼工事名Ⅱ公営住宅舗装新設工事
▽請負額Ⅱ六百三十五万五千円
▽請負者Ⅱ北秋建設・渡辺昌
▽工事期限Ⅱ五十七年二月二十八日

▼工事名Ⅲ公営住宅道路改良および舗装新設工事
▽請負額Ⅲ四百一十萬円
▽請負者Ⅲ朝日建設・小林正蔵
▽工事期限Ⅲ五十七年二月三日

（舗装新設工事）

▼工事場所Ⅲ胡桃館Ⅲ国道線（坊沢字胡桃館地内）
▽請負額Ⅲ千二百萬円
▽工事期限Ⅲ五十七年三月二十日

▼工事場所Ⅲ深閑沢線（坊沢字深閑沢地内）
▽請負額Ⅲ六百萬円
▽工事期限Ⅲ五十七年二月二十二日

※請負者は、いずれも佐藤建設・佐藤清治です。

停電のおしらせ

十一月十九日から三十日まで、次の地区が作業のため停電となります。

▽19日Ⅲ堂ヶ岱、脇神（午前九時から午後一時まで）
▽25日Ⅲ場の下（午前九時から正午まで）
▽27日Ⅲ南鷹巣（午前九時から正午まで）
▽30日Ⅲ糠沢・摩当（午前九時から午後一時まで）

危険物取扱者試験

昭和五十六年度第二回危険物取扱者試験は、五十七年一月八日午前十時から県立大館南高等学校で実施します。

受付期間は、十一月二十六日から十二月四日まで。
受験願書の受付は、秋田市山王四

丁目一番一号 秋田県消防防災課となっております。郵送する場合は、必ず封書に「願書在中」と朱書きしてください。受験願書は、鷹巣消防本部にあります。

行政書士試験

昭和五十六年度行政書士試験が、十二月六日（日）県正庁で行われます。

受験願書の受付は、秋田市山王四丁目一番一号 秋田県総務部地方課にて、十一月二十一日まで必着のこととなっています。

願書の請求や、くわしいおたずねも同課へ。

鷹巣町民号を運行

秋田鉄道管理局では、昨年に続いて鷹巣町民号を運行することになり、参加者を募集しています。日程は、十二月五・六日の一泊二日、行き先は山形県の「湯の浜温泉」となっています。

参加費は、一人二万二千五百円で、出発から帰着までの交通費、宿泊費、食事などすべての費用が含まれています。

申し込み、およびくわしくは鷹巣駅（電話二一五八）におたずねください。

火事と救急は

一一九番へ

第13回文化祭・第2回産業祭

躍動する町の文化と産業

15,000人の人出でにぎわう

学級作品展示



自慢ののどを披露



第十三回文化祭と第二回産業祭は一日から三日まで開催され、盛況のうちに三日間の幕を閉じました。

「地域の創造は産業の見直しから」をテーマに、商工農林業の粋を結集した産業祭は、鷹巣体育館を主会場に、木材、工業製品、農産物、生活工芸品が陳列され、訪れた多くの人を感動させました。

文化祭は、学級や同好グループの作品展示や邦雅祭、のど自慢で中央公民館は連日にぎわいをみせていました。

期間中は、比較的天候に恵まれ三日間で一万五千人の人出を記録しました。



けやきのテーブルなど逸品ぞろい



子どもにも大うけの茶席



造林木のモデルハウスもお目見え



特産品の売れ
ゆきも上々



間伐木を利用したコーナー



体育館・公民館の輸送バスはいつも超満員



警察音楽隊の演奏で
ふんい気を盛り上げて



身障者用の電話
も出品

商工青年海外研修

ヨーロッパ歴訪の旅



花園町 佐々木良則(28)

木工の街コペン

十月六日早朝、デンマークのコペンハーゲン着。家具展示場のペラセンタールと家具工場を視察しました。

予想していたヨーロッパ調のイメージとは違う、モダンでスマートなデザインと配色のすばらしさに感心させられました。この分野に関して進んでいるし、伝統的にデザインポリシーがしっかりしていると感じました。

コペンハーゲンは美しい街である。しかし、旅人を魅了するそのすばらしい景観の裏側は、決して水準の高い生活と、失業や麻薬問題をはじめ、数々の苦悩がかくされているの知らされました。

北欧特有のどんよりとした空模様のように活気がなく、笑顔の少ない街の中で、歴史的建造物や数々の銅像に調和する公園の緑が、鮮やかに印象に残りました。

合理的な西独

七日、デュッセルドルフ着。西独では、協同組合、商工会議所訪問、職業訓練学校、各工場視察のほか、ジェットロ(日本貿易振興会)との交流では、政治経済をはじめ協同組合制度や中小商工業の現状と、当面している問題点などを中心に講義を聞き、質問等を行いました。

中でも、西独の製品の高品質を根底でささえているのが、マイスター制度(国家試験による資格

制度)による手工業の技術の高さと、畜積にあることを知りました。

西独の製品には確かにすばらしいものが多く、その合理性や考え方を知らるには、日常の家庭用品を見るだけでもわかります。一つ一つの製品を手にとって見るたびに、彼らの機能を重視した合理性がデザインに現われていて、工業デザインを学んだことのある私をうれしくさせました。

観光地の中で特に印象的であったのが、ローテンブルグです。この中世と宝珠といわれる古城の街は、旅人をまるでタイムトンネルに迷いこんだような錯覚をおこさせます。そして、その小さな街並みをすくすく歩き、中世の息吹を肌で感じる時、だれしもこのようすばらしい遺物を残してくれたドイツ人に、感謝するであらうと思います。

中立国スイス

十四日、スイスのチューリッヒ着。ジェットロとの交流会のあとで精密機械工場を視察しました。

金融の国、そしてシェルター(防空壕)を義務づけているこの中

立国は、その産業においても高品質、最高級品志向をめざし、他のヨーロッパ諸国と違う独自の道を歩んでいると感じました。

ファッションの街パリ

十五日、パリ着。郊外型ショッピングセンター視察とジェットロとの交流会。デンマーク、西独でも感じたのですが、ヨーロッパにおける商業施設や理念は、日本より遅れているような気がします。ただし、デイズブレイ(ジョーウィンドー)の展示など、技術に関してはすばらしいものがあり、学ぶべきところが多くありました。

パリは、完成された観光の街といえます。最新のファッションが生まれ、最高の芸術があり、歴史的建造物があります。そして、その景観を保つために、並み並みならぬ国家的努力を払っているということでした。

しかし、今フランスはインフレ、輸出競争力の低下、失業問題などが深刻化し、近いうちにEC内で最も発展性のないイタリア並みになるのではないかと、という危惧さえ

感じているといえます。農業国であり、西独のような基礎的な工業技術の畜積のなさが弱点といえるかもしれません。

ジェットロ職員が語気を強めて、「フランス人は、自分の国の製品に責任を持たないし、物を売るといふ努力をしていないんじゃないか」と言ったことが、印象的でした。

事前の勉強不足のため、いささか消化不良さみのところもあり、これからが本当の研修だと思っております。

そして、この貴重な経験を血となり肉として、今後何らかのかたちで地域のために恩返しをしななければ、という責務を感じているしだいです。



ハイデルベルグの市庁舎前で市場が開かれている

このほど、社団法人日本損害保険協会から、消防庁を経由して鷹巣阿仁広域消防本部（木村秀夫本部長）にクレー付きの救急車が一台寄贈されました。救急車は十月三十一日に秋田市で贈呈式が行われ、十一月二日から鷹巣阿仁広域消防本部に配属されました。性能は夏の救急輸送に対応するためクレー付きで、ほかに自動吸引器、全身マジックギブス、いす付きタンカが装備している最新式のもので、車輻価格は、本体が二百五十五万円、付属部品百三十一万円（町負担）で、計三百八十六万円となっています。

日本損害保険協会から

救急車が寄贈



防ぎょ訓練行われる

七日市で火災発生を想定

秋の火災予防運動がはじまった十一月一日、七日市地区で防災体制の強化と防火予防思想の高揚を図るため、火災防ぎょ訓練が行われました。午前六時三十分、七日市農協付近で、火災が発生したという想定のもとに、通報があり消防車が出動。延焼の恐れがあるため各分団に出動を要請し、消防警戒区域を設定。各分団の消防隊を誘導して放水が行われました。訓練は、出川町長、畠山助役、木村消防長が指揮にあたり、約一時間ほどで終了しました。本番さながらの訓練を、遠まきに見物していた附近の住民は、整った消防体制に関心すると同時に、「火事を消すよりも、出さないよう心がけなくては」と、火災予防に心くばりをしていました。

油の科学

油そのものが燃えるのではなく 熱せられた油の蒸気が燃烧する

天ぶらなべに火が入る——と言っても、ガスの火が直接なべの中の油に燃え移るのではないことは、言うまでもありません。では、なぜ「火が入る」のか——この点を具体的にみてみましょう。

たとえば、アルコールやガソリンが燃えるのは、それ自体が燃烧しているわけではありません。アルコールやガソリンの蒸気が燃えているのです。専門用語では「蒸発燃烧」という言葉を使っています。

天ぶら油に「火が入る」のは、一つには、この蒸発燃烧による



また、なべが極端に過熱されると、中の油は自然に発火します。この時の温度を発火点といいますが、大豆油の場合摂氏四百四十四度、なたね油で四百四十六度です。——天ぶら油が温まるまでちよつとテレビを、などというのは文字どおり「火事のもと」です。くれぐれもご注意ください。

蒸発燃烧が始まる、つまり蒸気に火がつく温度を引火点といいますが、天ぶら用に最も多く使われる大豆油で摂氏二百八十二度です。また、なたね油はそれより低く摂氏百六十二度となっています。

なべの中の油がこの温度に熱せられると、蒸発（気化）し始めます。この蒸気は、空気より重いためになべの下に流れ込み、ガスの火がついて油もろとも燃え上がるのです。「天ぶら火災」の大半は、この蒸発燃烧によるものと言われています。

公民館のついで

第十三回鷹巣町文化祭の開会記念講演が、去る十一月一日鷹巣町中央公民館ホールで行われました。講師はABS解説員の山田実先生で、ふるさとを見直す「秋田の自然、こよみ」という題で、講演いただいた内容を要約して、ご紹介します。

県南と県北の民俗性

秋田県の民俗性は、雄物川水系と、米代川水系に大別される。県北地方（米代川水系）は、山がきびしく、風が強い。そうした自然のきびしさから、人々の性格はぐくまれてきた。県の校長先生方の会でも、県南の人達が、いろいろ

ろと論を続けていると、県北の人達は「そんな事を、いつまでしゃべっても、どうなるもんでもない。それより、まず、いっぱいやるべし」という具合に、同じ県民でも北と南で、その性格が異なる。農協の集まりでも同じ事が言える。

冷害は異常ではない

二年続きの冷害で、驚いているが、実は今まで続いた暖気が異常なのであって、昨年、今年の冷害は、地球の周期からすると当然のこと、明治二十年頃と似ている。また、稲作は季節に合わせて作業をしなければならぬので、日本人の働き中毒は、この辺から来る

のかも知れない。

自然こよみと農作業

昔からのことわざの中に、今も農作業の大きな目安となっているものがある。例えば……

▽田打ち桜、山の残雪、農耕の時期を知らせる。

▽ビッキ（カエル）が泣きやむと霜が降る

▽カミナリが鳴ると豊作

▽トンビが鳴くと晴れ、乱舞すると大風

▽森吉山の雲のかかり具合で天気予想ができる

その他おもしろいことわざに、毛ズネのある男に金を貸すな。とか、栗の木の下でデートするな。

また、足の裏がはてると、百日長生きする等、生活にむすびついたことわざもある。

学級紹介

若妻中央学級

各地区の若妻学級の代表者で構成されているのが、若妻中央学級です。

鷹巣町若妻学級連絡協議会が結成された昭和五十四年に発足し、各学級間の連絡調整に貴重な役割を果たしています。他に、全町若妻移動研修の企画、リーダー研修の企画実施など、若妻学級の大きな支えになっています。ただ、自分の地区の学級運営をして、さらに中央学級という事で、役員の方に

はかなり負担になっているようです。

二年間のそうした反省をふまえて、今年

はできるだけ中央学級の行事を制限したつもりですが、それでも、年間十回以上の会合がもたれています。特に今年には文化祭に「若妻食堂」を開き、大変難儀しましたが、終わりました。



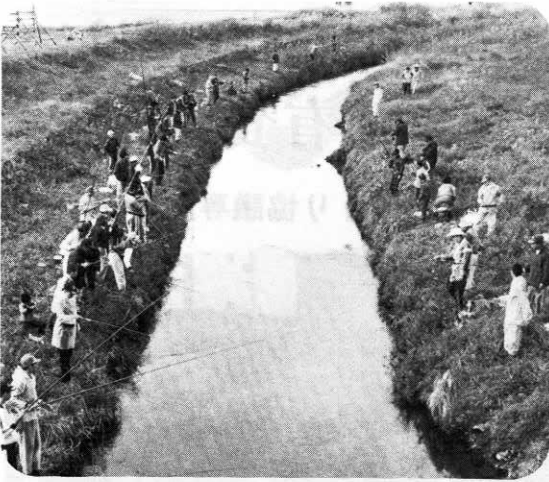
「やっぱりやって良かった、これが相互連帯のきっかけになる」という意見もあります。

中央学級会長 中島 洋子

郷土史年表

42

西暦	年号	事	項
一九一八	大正七	○三月十日 陸軍記念日行事として鷹巣小学校四年以上が川口小学校まで雪中遠足を実施する。 ○三月二十七日、市町村義務教育費国庫負担法公布（小学校教員の給与の一部を国庫負担するというもの） ○大学令公布（公私立大学を認め予科を置くことができる） ○高等学校令公布 ○七月十二日・児童よみもの「赤い鳥」創刊 ○国定教科書改訂「ハナ・ハト・ママス……」 ○八月三日、富山県に米騒動が起り全国にひろがる。参加者七十万以上、米一石三十三円に暴騰す。 ○八月十九日、秋田市で米の廉売をはじめ。このあと全県に廉売が広がる。 ○九月二十九日、わが国はじめての政党内閣、原敬内閣成立。 ○十月から翌年開始にかけて悪性インフルエンザ大流行、全国で死者十五万人、当地でも休校する学校が多く出る。 ○十月三十日 鷹巣電気株式会社、火力電灯取付完了。 ○鷹巣小学校、綴子小学校に電灯がつく。 ○十一月十五日から二十六日まで、県農業会主催の種苗交換会を鷹巣小学校で開く。 ○十一月、鷹巣小学校の体操場新築、落成す。 ○十一月十一日、ドイツ降伏、休戦条約成る。	



町民つりデーに120人参加

鷹巣釣り同好会では、多くの町民に河川のクリーン思想の啓蒙と、釣りのだいごみをあじわってもらおうと第9回町民つりデーを10月25日午後1時から、綴子川で行いました。同会では、朝早くから会場を整備してニジマス千尾を放流。120人余りの釣り天狗が参加して腕を競いました。小人の部で武内知明くん、大人の部で西根紀人さんが優勝しました。

町では、このほど栄字堤沢地内の3ヘクタールに栗1200本を植え、将来は町民いこいの栗園にする計画で

す。同地は、町が財産増成計画で杉の植林をしている280ヘクタールの一角で、農免道路小森・摩当線から600メートル入ったところです。

道路が整備され、3年後には家族づれのピクニックで、栗拾いが楽しめる新名所となります。

新名所 栗園をめざして



鷹農祭で世相反映の仮装

鷹巣農林高校の鷹農祭の名物「仮装行列」が、町内の目抜通りを練り歩きました。

10月24日は、あいにく雨に見舞われ膚寒い天候でしたが、生徒はクラスごとにアイディアをこらした「阿仁合線廃止反対」や「北炭事故の再現」など、世相を反映したデコレーションで行列し、沿道を埋めつくした観衆から、盛んな声援を受けていました。



鷹巣スキーレーシングスポーツ少年団父兄会では、このほど団員のスキー用具の不用品400点余りを出品

して、「スキー用品交換チャリティーバザー」を鷹巣町中央公民館で開きました。

出品された用具は、まだまだ使える新品同様の物ばかりで、市価の4分の1程度で希望者に販売。1時間位でほとんど売れつくしていました。

鷹巣RC少年団でバザー



ごはんの副食には 魚と有食野菜を

＝健康づくり協議専門部会＝



鷹巣町健康づくり推進協議会の専門部会（保健婦・栄養士・養護教員・農林課生活指導担当・助産婦、それぞれの代表）は十月二十一日、中央公民館で開かれ、当面する問題について話し合った。このことは後日、協議会にかけ、更に話し合いを深め、構成メンバーである各団体をとおして町民への浸透をはかることにしている。

学校ごとの 給食施設がほしい

町内の各小・中学校では九月から週二回（火・木）、委託炊飯による米飯給食を実施し好評を得ているが、実際にやってみて新たな問題が出てきた。
給食センターでは、ごはんにくう副食ということで焼魚などつく

りたいが、なにせ一度に千数百人分をつくることは、大変困難でありおいしいものができない。できることなら学校ごとの給食施設がほしいものである。
戦後、日本人の食生活は洋風化し、現代っ子は肉料理を好み、魚はなれの傾向にある。そのため、せっかく手数をかけて料理しても意外に残食が多い。
このままではカルシウムや、ビタミンAが不足し、成長期にある児童生徒には問題である。各家庭では、有色野菜や魚をもつと食べさせるようすめなければいけない。

気軽るに開ける

学校保健委員会を

学校には、法で定められた保健

委員会があるが、いろいろ都合もあつてなかなか開けないようである。毎回、学校医が出なくても、気軽るに開けるようにし、それぞれの学校の課題を明らかにし、各家庭にはたつきかけることをおねがいしたい。
そして、養護教員に、もっと活躍の場を与えてほしい。現状では十分に力を発揮できないのが養護教員部会のなやみになっているといふ。

予断ゆるさぬ

結核患者の発生状況

鷹巣町の結核患者登録者数は、昭和五十五年十二月末で九十三人その後九月までに新登録患者十八人が加わり百一十一人になっている。近ごろは結核軽視の傾向にあり、検診を受けない人が多く、新患者の半数は無受診者から出ている。それは、中小企業に働く人に多く、発見されたときには重症になっている場合が多く、危険なことである。

ツベリクリン反応検査や、BCG接種の意味さえわからぬ人が多く、PR対策がせまられている。

母乳栄養のよさを

さらに徹底したい

助産婦が部落に出かけ、妊婦訪問、新生児訪問をしているが、日中は留守がちで会えないことが多い。

乳児には母乳がよいことは、だんだん理解されてきたが、母乳の出し方など、フィルムを購入し、さらに母親教育を強化したい。

ふるさと 人物伝 ⑭

和田喜八郎

一八七三—一九三六



明治五年、鷹巣村に生まれる。幼少の頃父を失い、家は貧しく学校を中途退学して郡役所の給仕となり家計を助けていた。まじめによく働き、先輩から目をかけられ特に、時の村長成田儀八郎に可愛がられ、いろいろ世話になった。

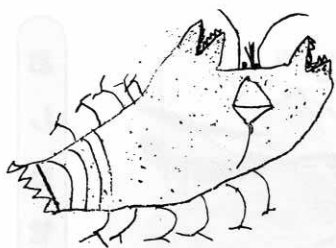
鷹巣小学校から秋田師範学校に進み明治三十六年、卒業後東京高等師範、文科に入り、卒業して秋田師範学校教諭となり、かたわら付属小学校校長を勤める。その後、高等師範学校研究生として中国に渡り四川省、成都高等学堂講師を五年間勤め、中国の研究を深める。

帰国後は愛知師範教諭、函館師範学校長、沖繩師範学校長、宮城高等女学校校長を経て、大正十三年、再び母校秋田師範学校に転じ、以来昭和七年まで同学校長として、その手腕をたたえられた。退職後は、土崎商業高校長となり、かたわら秋田県教育会長として全県の教育刷新に大きく貢献する。

彼は郷土の教育に熱心で、特に先賢の徳をしのび、その顕彰に意を用いた。成田直衛翁顕彰のため銅像を建てる話があった時、「銅像を建ててもカラスの糞をかぶるばかりだ。図書館を設立して青少年の向学に役だてるべきである」と主張し、図書館を設立し、蔵書の大半を寄贈した。成田翁記念図書館はよく活用され、多くの人材養成に役立ったが、惜しいことに昭和二十五年の大火で焼失した。

昭和十一年、六十五歳で亡くなられた彼の葬儀は秋田県教育会葬として盛大に挙行された。その後、三沢元、佐賀徳治、二階堂善三氏等により「和田喜八郎伝」が刊行され教育界に広くくばられた。その中に、彼のプロフィールとして「休息を知らぬ活動家で、強度の近眼鏡を光らせ肩を張り手を振って忙しそうに歩く姿は何人の眼にもほうふとする先生の印象である」と述べている。

（資料 鷹巣郷土誌 和田喜八郎伝）中央公民館長 長崎 久



こまつ
りゅういちくん
(5歳)

ぼくの絵 わたしの絵

ザリガニ
＝綴子保育園＝



なりた
さなえちゃん
(6歳)

昨年にも続いての不作でした。昨年はあまりの収量の少なさに驚き、機械の故障で収量が飛んでいるのではないかと思ひ、コンバインを降りてみた程でした。今年は昨年の経験があるので、さすがにそれはしませんが似たようなもので



四 渡 成田 直敏(29)

収穫を終えて

地域的には山間地が昨年よりはやや良く、平地の方が昨年よりも悪い。山間地と平地との差があまりなく全体的に悪いといったところでしょうか。昨年の山間地のシヨックに近いものを、今年は平地でも味わっています。

今、農家は今年から始まった水田利用再編第二期対策での転作の強化、ここ数年の事実上の米価据置き、そして二年続きのまれにみる大不作といったトリプルパンチで、かつてない程の経済的打撃を受けています。加えて、国際競争力のない米。安い米を供給できないという精神的悩みもあります。一戸当りの耕地面積が小さく、

個々で経営している現状ではやむを得ないことではあります。かといってこのままの状態ではいいとは思えません。

このように、気候と土地の制約を受ける農業です。また、性急な改革が無理な農業ではありませんが、意欲と創意工夫があれば、まだまだやれると思います。今のように苦しい時こそ、自分の経営を見直し、未来を見通した計画をたてるいい機会ではないかと思っています。

自分で一生の仕事として選んだ農業から脱落しないよう精進し、地域の人達と協力しあうことでこの苦難を乗り越え、生命を支える大切な食糧生産に取り組んでいきたいと思っています。

みんなの広場



みやまがまずみ

ジヨミ。実は食べられるが今の子どもは食べない。赤い実が美しい。

(理科センター・阿部達雄先生)

水仕事

水仕事 寒くなると台所のお仕事はつらいものです。「宿命」といっては少しオーバーですが、主婦と水のかかわり合いは、むかしから切り離せません。炊事もせんたくも、みんな水が相手です。

とくに寒くなると、この水仕事で手が荒れる方は冬を一番いやがります。しかし、水仕事が直接手を荒れさせているというのはいさぐさいです。水仕事をしている最中は、決して手は荒れるものではないです。要はあとの手入れが問題なのです。

をふきとって、最後にハンドクリームなどをつけて、失った脂肪分を補っておくことが大切なのです。あとの手入れといっても、にの強い化粧料を含んだクリームは、あとで包丁、食器などにさわらなければならぬようなとき、においをうつす心配がありますので、避けたほうが無難です。

たかのす文芸

ごみ拾い

綴子小学校四年 勝 又 由 香

ねむい目をこすりながらしゅしゅ母さんと町内のごみ拾いにしかけて行つた道路わきの草ぼうぼうの中から空かん下水のどぶの中にも空かん大きな黒いごみぶくろがたちまち三つも出来た

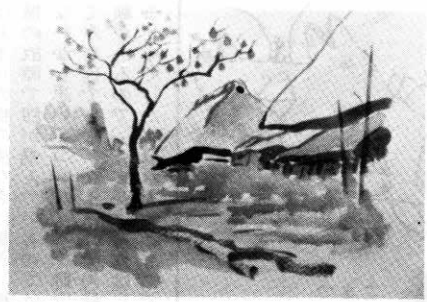
わたしがきのう食べすてたおかしのからが見つかったわたしは

そんなことをした自分はずかしくなつた

わたしは、こっそり拾つてごみぶくろに入れた



おしらせ



一線美術会委員 九島紫二氏

十一月の健康相談

成人健康相談は、二十五日です。時間は、午前九時から午後三時まで。血圧測定のほか、必要に応じて尿検査も行います。場所は、鷹巣町中央公民館保健相談室です。

離乳食実習指導は、十九日、十六年四月生まれとなっています。受付時間は、午前九時半から十時まで。乳児健康相談も併せて行いますので、お子さんもお連れください。

乳児健康相談は、十九日、十六年七月生まれとなっています。受付時間は、午後一時から一時半まで。

※場所、いずれも鷹巣保健所で。す。

結核二次検診

都合により受診していない全町の方を対象に、十一月十七日、二十日の二日間、結核二次検診を実施いたします。検診料は無料。時間は、午前九時三十分から十一時三十分まで、午後十二時三十分から三時まで鷹巣町中央公民館となっています。

予防接種

生後二十四か月から四十八か月（五十二年十一月二十六日から五十四年十一月二十六日）までの出生者を対象に、百日せき、ジフテリア、破傷風の三種混合ワクチンの予防接種を行います。

接種は、鷹巣地区以外の方は二十六日、鷹巣地区の方は二十七日に行います。

受付時間は、午後一時から二時半まで、鷹巣町中央公民館ホールとなっています。おいでの方は必ず母子手帳を持参ください。

水道栓の点検は 済んでいますか

例年より寒さが早いといわれて、いるこの頃ですが、水抜栓の点検は済んでいるでしょうか。具合の悪い水抜栓、あるいは古

い水道栓は漏水の原因となりますので、早めに修理をしてください。なお、修理等の依頼がある場合には、町の指定水道工事店、または水道課工務係（電話二三四九〇）まで連絡くださればすぐに伺います。

また、今回改良工事を施しました綴子簡易水道の給水装置については、田中地区、掛泥地区等が特に水圧が高い地区ですので、漏水には十分注意するようお願いいたします。

なお、従来使用していた地下メーターから地上式メーターに替えましたので、使用水量はすぐにおかれます。異常に多い使用量の時は、連絡してください。

健康大学閉講式

六月から開講された健康大学が十一月二十五日、鷹巣町中央公民館で閉講となりました。

当日は、午前中に、脳卒中を防ぐ食生活の調理実習試食会、午後からは閉講式を行います。

また、三回以上出席した方には、終了証と記念品が贈呈されます。

県民手帳が入荷

昭和五十七年用秋田県民手帳が入荷しましたので、予約をした方は役場企画係で、代金三百円と引きかえにお受け取りください。なお、手帳の残部がありますので、予約していない方でもご希望の方はおいでください。

香典返し

このほど次のかたから、香典返しにと町社会福祉協議会へ寄付金がありました。ご芳志に深く感謝いたします。▽昭和、畠山チエさんから亡夫貞助さんの香典返し 二〇、〇〇〇円

▽田中、茂内忠男さんから亡父作治さんの香典返し 三〇、〇〇〇円

▽綴子下町、小笠原淳さんから亡父直助さんの香典返し 三〇、〇〇〇円

▽大町、佐藤英治さんから亡父榮三郎さんの香典返し 一〇〇、〇〇〇円

▽綴子下町、藤島信一さんから亡母カネさんの香典返し 二〇、〇〇〇円



誕生おめでとうございます

10月16日、10月31日

河合 献一（裕志 長男）東横町
遠藤 裕一郎（昭夫 長男）舟見町
多賀谷 恵（一夫 二女）材木町
宮野 純子（静雄 二女）綴子下町
相馬 大晴（唯人 長男）材木町
高橋 篤史（和則 長男）南鷹巣
成田 彩恵子（金一 長女）南鷹巣

畠山マリ愛（陽一 長女）前野
津谷 知輝（金雄 三男）緑ヶ丘
畠山 千里（晴夫 長男）南鷹巣
神成 知和（好昭 二男）小森
二人の前途を祝福いたします

三 沢 尚 光 田 中
小 笠 原 千 鶴 子 大 畑
木 村 晃 一 七 日 市
小 野 隆 子 太 田
伊 藤 金 弥 前 野
高 橋 ち か 子 前 野
高 坂 博 美 元 町
長 岐 龍 子 大 館 市
中 川 真 一 北 家 後
堀 沢 和 恵 大 堤
河 田 梨 久 子 住 吉 町
近 藤 民 雄 中 岱
菅 原 郁 子 比 内 町
坂 上 修 一 郎 合 川 町
畠 山 厚 子 大 畑
金 山 弥 志 広 森 吉 町
河 田 真 紀 子 元 町
岩 淵 健 一 前 山
大 川 登 喜 子

おくりやみ申しあげます

五十嵐 忠左エ門（63歳）掛泥
佐藤 正行（46歳）街道町
茂内 太市（73歳）新舟見町
成田 作治（68歳）南田中
戸嶋 イト（52歳）坊沢上町
小笠原 春吉（82歳）前山
藤島 カネ（72歳）下町
佐藤 金治郎（64歳）妹尾館
小平 一雄（57歳）太田
大川 利一（78歳）大町